

## 芸術科（書道 I）学習指導案

広島県立賀茂高等学校  
教諭 迫 眞一郎

- 1 日時・場所 令和7年7月2日（水）第3限目（10:45～11:35）、第4限目（11:45～12:35）・書道教室
- 2 学年 1年4組 20名（男子7名、女子14名）
- 3 単元名 漢文の作品を書こう<漢字の書 行書の臨書 >

### 4 単元について

#### （1）単元観

本単元は、平成30年告示学習指導要領 第2章各学科に共有する各教科 第7節芸術 第10書道 I 2内容 A表現 （2）漢字の書 ウ（ア）古典に基づく基本的な用筆・運筆、及びB鑑賞 イ（ア）線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、に基づいて設定した。

#### （2）生徒観

生徒は、これまでの授業で楷書の学習をした。5種類の古典から3種類を練習し、その中から1種類を選んで清書した。生徒たちは、毎時間課題に真摯に取り組み基本的な技能を身に付けてきた。一人ひとりと言えば、持っている技能には大きな差がある。授業の中では、一人ひとりの能力に応じて、指示する内容のレベルを変えたり、問い方を変えるなどしながら、生徒の持っている力を引き出すことができるよう、心掛けている。

#### （3）指導観

本単元では、行書の基本的な技能を身に付けて、楷書もしくは行書を使つての創作活動に繋げていく。書風の違う古典を学習することにより、創作において題材が表現しようとする情景や作者の感情を、書風により表現する方法を考える基盤とする。

### 5 単元の目標

- （1）用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解する。[知識・技能]
- （2）行書の古典の線質、字形や構成を生かした表現の技能を身に付ける。[知識・技能]
- （3）行書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。[思考・判断・表現]
- （4）主体的に漢字の書（行書）の幅広い表現の学習活動に取り組む。[主体的に学習に取り組む態度]

### 6 単元の評価基準

① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
・用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。 ・行書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付けている。 ・行書の古典の線質、字形や構成を生かした表現の技能を身に付けている。	・行書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。	・主体的に行書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。

## 7 指導と評価の計画

次	学習内容（時数）	評価				
		知・技	思・判・表	主体的態度	評価規準	評価方法
1・2	使用古典：蘭亭序 課題：「天朗気清」半紙使用	●	○	○	・行書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付けている。	作品 ワークシート
3・4	使用古典：争坐位文稿 課題：「魯郡開国」半紙使用	●	○	○	・行書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付けている。	作品 ワークシート
5・6 【本時】	蘭亭序もしくは争坐位文稿の学習をする。 ① 前回の提出物を自己添削して、それを基に練習する。 ② 次の部分を半紙で練習 蘭亭序：「恵風和暢」 争坐位文稿：「公顔真卿」	○	●	○	・行書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付けている。 ・行書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。	作品 ワークシート
7・8	前回までに練習した八文字を通して練習する。半切1/2使用 蘭亭序：「天朗気清恵風和暢」 争坐位文稿：「魯郡開国公顔真卿」	○	●	○	・行書の古典の線質、字形や構成を生かした表現の技能を身に付けている。 ・行書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 ・主体的に行書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。	観察 作品 ワークシート
9・10	半切1/2に、課題の八文字を清書する。	○	●	○	・行書の古典の線質、字形や構成を生かした表現の技能を身に付けている。 ・行書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 ・主体的に行書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。	観察 作品 ワークシート

## 8 本時の展開

### (1) 本時の目標

- ・ 古典の用筆・運筆の特徴を表現する。

### (2) 本時の評価規準

- ・ 行書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付けている。(知識・技能)
- ・ 行書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。(思考・判断・表現)
- ・ 主体的に行書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

### (3) 学習の展開 (5・6時間目/全10時間)

過程	学習活動	◇指導上の留意点 ◆努力を要する状況と判断した生徒への指導と手立て	評価規準 (評価方法)
導入 10分	1 前時の復習と本時の目標を確認する。	◇それぞれの古典の、用筆や運筆面での特徴を確認させる。  選んだ古典の用筆・運筆の特徴を、表現する。	
展開 75分	2 ワークシートに選択する古典名と、その理由を記入する。	◇古典を選択する理由を、特徴と関連付けて理由を明確に説明させる。 ◆古典のどのような点が気に入ったのか、質問しながら考えさせる。	[主体的な態度] ・ワークシート
	3 前回書いた作品を自己添削する。	◇起筆と収筆の形に注目させながら、筆の動いた軌跡を想像させる。 ◆自己添削の未記入の部分について、記入するよう促す。(机間巡視)	[思考・判断・表現] ・自己添削
	4 自己添削を参考にしながら、前回課題を清書する。	◇最低限一文字を一度の墨継ぎで、一気に書くよう促す。 ◆できない生徒には、筆を一緒に持って書字して、用筆・運筆を確認させる。(机間巡視) ◇起筆と収筆の形に注目させながら、筆の動いた軌跡を想像させる。 ◆自己添削の未記入の部分について、記入するよう促す。(机間巡視)	[知識・技能] ・作品
	5 課題後半部分の練習をする。	◇起筆と収筆の形に注目させながら、筆の動いた軌跡を想像させる。	[知識・技能] ・作品
	6 後半部分の作品を自己添削する。	◆自己添削の未記入の部分について、記入するよう促す。(机間巡視)	[思考・判断・表現] ・自己添削
まとめ 片付け 15分	7 本時の振り返り 8 次回の予告	◇目標の達成度について、具体的に根拠を持って説明させる。	[主体的な態度] ・ワークシート